

企画展 ようこそ 絵図とくずし字の北区へ！



展覧会リーフレット

当館は昭和43年の開館以来、古文書など歴史資料を収集・保存しています。現在、3万点以上を収蔵し、整理が続けられています。本展では、それら収蔵品のなかから、北区が描かれた江戸～明治時代の絵図や公文書などを展示し、あわせて、新潟市指定文化財である寄託資料「寛政二庚戌年福島潟絵図」を公開しました。

古文書はさまざまな情報を現代の私たちに伝えてくれます。古文書が残っていることにより、当時の社会の仕組みや人々の暮らしぶりなど、地域の歴史を知ることができます。しかし、墨で書かれたくずし字は、解読が難しく内容がわからないといわれます。そのため、現代とも比較しやすい絵図の展示を通して古文書に触れるきっかけとし、その保存の大切さを伝えました。

関連講座として、初心者対象の古文書講座を4回シリーズで開催しました。講座終了後、有志により「北区古文書解読研修会」が発足し、当館の古文書等を活用して活動を続けています。



「寛政二庚戌年福島潟絵図」の展示解説



江戸時代の公文書や、和紙50枚を貼り継ぎ長さ約15mにした紙に新井郷川を描いた絵図（写真右の手前）などを展示。写真右の奥が市指定文化財「寛政二庚戌年福島潟絵図」



企画展 郷土作家シリーズ 没後80年 南画家 阿部半雅展

1854(安政元)年、現新潟市北区樋ノ入に生まれた南画家、阿部半雅(1933(昭和8)年没、本名阿部久平)の没後80年を記念して開催しました。会期中の10月13日には新潟大学准教授、岡村鉄琴氏による講演会「阿部半雅が生きた南画の世界」を行いました。半雅を知る手がかりとなる資料が極めて少ない中で、今回の講座は、1937(昭和12)年に建立された半雅を顕彰する石碑の碑文から、その人物像と業績を読み解いていくというさながら歴史の授業のような内容が中心で、74人がテキストを見ながら熱心に聴講しました。



↑講演会
→阿部半雅翁之碑(樋ノ入 松枝神社境内)



記録集『まなびやに託されたメッセージ 新潟市北区の小学校・中学校の所蔵作品』刊行

学校が所蔵し、管理してきた作品は、作者の思いを大切に守り、未来に引き継いでいくことを学ぶためのかけがえのない教育財産です。当館では、平成22年度に区内の小・中学校21校の協力を得て、所蔵作品についてのアンケートを実施し、翌23年度から25年度にわたって、各校を訪問して調査を行いました。

学校は、開設以来、その制度も建物も、そして学校に関わる人たちも変わっていくという宿命を負っています。しかしその変化の歴史のなかで、「作品たち」は、多くの人たちから託された「まなびや」へのメッセージを担いつつ、過去から現在に引き継がれています。

このたびこの調査の集大成として記録集を刊行しました。まなびやの「作品たち」が、さらに未来のこどもたちへと引き継がれていくことを願っています。



学校所蔵品のリスト、図版、作品解説、作者紹介が掲載された記録集